

令和5年度 附属学校研究支援・特色化にかかわる事業実施報告書

事業の名称	附属特別支援学校における研究成果を全国へ発信する方法の開発
事業実施代表者名	校長 青山 眞二
実施附属学校園名	附属特別支援学校
事業内容 (実施内容について、500～1,000字以内で記述)	<p><事業の概要> 本事業では、本校での様々な実践や研究成果を地域、全道、全国へ効果的に発信し、本校の取組についての理解や関心を高めることを目的とした。また、大学と連携した教育実習や教員研修の取組についても全道、全国へ発信することで、学校視察や公開研究協議会への参加者増加にもつなげていきたいと考えた。</p> <p><事業の方法と内容></p> <p>①公開研究会の開催 7月に公開研究協議会を参集型・オンラインの方法で実施した。授業公開と研究協議、筑波大学教授 野呂文行氏の基調講演会を行った。 また、大学と連携し、当日を教育実習生の事前授業の一つに組み入れた。 また、2年次の学生にはボランティアとして参加いただいた。</p> <p>②各種学会での発表 9月に行われた北海道特別支援教育学会函館大会において、本校から5本のポスター発表を行った。</p> <p>③研究成果物の作成 「教材・教具と特別支援教育のアイデア」を、全教員で執筆した。発行は、図書文化社より令和6年3月末の予定である。 また、3年ぶりに研究紀要を作成した。印刷物また、データで全国へ発信する。</p> <p>④他校との研究交流 知内小学校の特別支援学級および各教科の研究会に、全5回教員を派遣した。</p> <p>⑤地域向けの教員研修会の実施 本校の教員が学びながらその内容を発信していく方法として、地域の教員に向けた「地域教員研修会」を実施した。</p> <p>⑥附属4校園の特別支援交流 管理職を交えた4校園コーディネーター会議を実施した。</p>
成果と課題 (活動の成果と課題について、500字程度で記述)	<p>①公開研究会の開催について オンラインと来校の方法を設定することで、119名の参加があった。来校した教員が十分に授業に参加できない環境となったこと、協議会の時間が十分にとれないことのアンケートがあったことから、次年度の実施の方法を検討する必要がある。 教育実習生の事前授業の一つに組み入れたり、2年次の学生にはボランティアとして参加いただくことで、大学との連携を発信することができた。</p> <p>②各種学会での発表 本校の取組の一部を、学術的に発信することができた。函館が開催だったために多くの教員が参加したが、次年度も継続して参加していくよう学校として費用等を整えて行く必要がある。</p> <p>③研究成果物の作成 全国に発信していくことができたと考える。</p> <p>④他校との研究交流 知内小とは次年度、通常の小学校と特別支援学校の実践校疏として取り組み、成果を発信していく予定である。</p> <p>⑤地域向けの教員研修会の実施 「地域教員研修会」は7月、10月、1月の3回シリーズで設定した。来校とオンラインの方法をとったことで、計350名の参加があった。次年度も継続する。</p> <p>⑥附属4校園の特別支援交流 一回のみの開催となった。次年度は計画的に実施する。</p>

<p>今後の発展性 (残された課題の解決方策及び取組の方向性について、500字程度で記述)</p>	<p>それぞれの取り組みについて、参加者のアンケート、職員の反省等を踏まえ、バージョンアップする必要がある。そのためには、職員の業務負担になりすぎないように、分掌等を整理して行く必要がある。 また、紀要等の作成値段が以前よりあがっているため、増刷が難しい。予算内でできる効率的な方法を検討していく必要がある。</p>
<p>事業の公表状況 (事業をHPで公開した場合、又は新聞等に掲載された場合、当該媒体名、掲載日等を記入)</p>	

(注) 当該事業に係る写真等の参考となる資料がある場合は、この事業報告書に添付すること。